

まえがき

琉球・薩摩関係の『日本近世生活絵引』は、今回の「琉球人行列と江戸編」で3冊目になります。南の「奄美・沖縄編」から始まり、「南九州編」そして江戸と、南から北にテーマを繋ぎ、いずれもメンバーの渡辺美季さんを中心に共同研究を進めてきました。

今回は、琉球使節行列が江戸を歩く様子を描いた「琉球人行^{ぎょうそう}粧」(全2巻)と、行列が通過する江戸の町の賑わいを描いた「琉球人往来^{にぎわい}筋 賑之図」(全1巻)という計3巻の絵巻を用いて絵引を作成しました。この絵巻は、嘉永3年(1850)の琉球謝恩使を、江戸詰であった宇和島藩士^{こうつぎゆきよし}の上月行敬が嘉永4年に描いたものです。残念ながら第一巻は失われていますが(※)、幸いにも大正4年(1915)に、鹿児島の新納^{にいろうさかえ}榮という人物が全巻の写本を作成していました。彼は、なんと9歳の少年でした。しかし、この写本は大変よく描けています。そこで現存しない巻一についてはこの写本を利用し、巻二・三は原本を利用しました。また全体図として原本と写本を並べて掲載し、両方を比較できるようにしました。

絵巻の原本は鹿児島大学附属図書館に、写本は鹿児島県立図書館に所蔵されています。私たちは、その両方を熟覧調査して、原本と写本を比較検討しました。鹿児島大学では、私たちのメンバーでもある法文学部の高津孝・丹羽謙治両先生に大変お世話になりました。本当に感謝申し上げます。

また琉球使節研究の第一人者で、大著『琉球国使節渡来の研究』(1987年)をお書きになった横山學先生にも、ご協力いただきました。横山先生とは私も30年を越えるご親交をいただいています。学生のころから琉球使節について研究し、ハワイ大学^{ホーレー}宝玲文庫所蔵資料をはじめとした膨大な関連史料に精通しておられる方です。その先生から研究会における貴重なご教示のみならず、特別寄稿までたまわりました。厚く御礼申し上げます。

本絵引で扱った絵巻には、中国風の衣装を着た琉球高官、女性風のいでたちをした楽童子、チャルメラや打楽器を演奏する路次楽人などが描かれ、当時の江戸の人々は珍しい異国人がやってきたと目を見張ったことだと思います。絵引では絵巻各場面に描かれた事物に名称をつけ、場面ごとの解説を10名のメンバーで分担して執筆しました。そして、後半の「解題と考察」では、6名のメンバーと横山先生の計10本の論考を収録しました。各論考からは、ここで取り上げた絵巻の背景が色々見えてきて楽しくなります。是非お読みください。

本書に掲載した画像については所蔵機関として、鹿児島大学附属図書館、鹿児島県立図書館をはじめ、沖縄県立博物館・美術館、公益財団法人東洋文庫、国立歴史民俗博物館、江戸東京博物館、東京都立中央図書館、長崎大学附属図書館、大阪歴史博物館、愛媛県歴史文化博物館に大変お世話になりました。また英文タイトルについてはトラビス・サイフマン(Travis Seifman)さんのお手を煩わせました。記して感謝申し上げます。

※本書校正中に、奇しくも第一巻の原本が「発見」されました。これについては巻末の付録をご参照ください。

非文字資料研究センター『日本近世生活絵引』琉球人行列と江戸編編纂共同研究代表
小熊 誠